

# 令和4年度 浜田市保育連盟

## 第13回 保育研究委員会報告書

|                             |                            |                       |                     |     |                  |
|-----------------------------|----------------------------|-----------------------|---------------------|-----|------------------|
| 浜田市保育連盟会長<br>山崎 央輝 (おぐに保育園) |                            | 保育部会長<br>吉中 馨 (美川保育園) |                     |     |                  |
| 開催日時                        | 令和5年2月7日(火)<br>14:00~16:45 | 開催場所                  | 浜田市総合福祉センター<br>大会議室 | 記録者 | 高田志津子<br>(今福保育園) |
| 出席園                         | 18園                        |                       |                     | 欠席園 | つくし保育園<br>みのり保育園 |

### 1. 協議内容

#### (1) 令和4年度の活動について

##### ・研究発表について (報告、反省)

7月14日、15日 中国大会 (山口県下関市) 参集型

第1分科会 (全体ではなく分科会で発表する) 発表時間: 30分

質疑応答…「連絡帳での写真掲載の頻度」「職員会の形態はどんな風になっているか」について質問される。反対に、多くの園がある団体の中でどうやって研究をまとめているのか質問し、答えてもらった。

講評…応答的な保育が良かった。子どもたちを見る・知ることが一番必要。

10月20日 全国大会 リモート開催 松江市保育協議会

第1分科会 (分科会で発表する) 発表時間: 30分

質疑応答…「家庭へのハッピースマイルデーの頻度は」について質問される。

講評…いろいろな切り口があって良かった。市全体で取り組み、統一出来て良かった。

12月17日 県大会 (大田市) 参集型 半日開催

分科会はなく、全体でのパネルディスカッション、質問形式 発表時間: 20分

島根大学 肥後先生 全体講評

#### ○平成31年度からの研究発表への活動について

- ・研究委員と他の先生との温度差があったり、今回は012歳児対象だったので、以上児クラスと乳児クラスとの共有が難しかった。
- ・研究を進めることで、子どもについての話題が増え、振り返りや情報交換ができてよかった。
- ・20園で進めるのは、他園の先生の話の聞いたり、情報交換になるなど良かった面も多いが、研究を進めていくのは難しかった。
- ・方向性が決まるまでが長く、研究時間が短かった。
- ・手遊び、スキンシップは、身近な研究内容でおろしやすかった。
- ・研究発表のための研究になってなかったか。研究してきたことが続けていける保育を。

- ・研究発表のデータを各園で見てもらったら良いのではないかと。(講評の場面なども参考に)
- ・パソコンの準備やパワーポイントなど操作についての不安もある。
- ・研究委員が変わるときの引継ぎが難しかった。

(2) 令和4年度の決算について

収入 35,000円

支出 22,472円 (お茶代、コピー代)

残高 12,528円

(3) 今後の活動について

総務委員会で提案

今後も研究委員として年に1回か2回活動を継続していったらどうか

今回の研究で出た課題を土台にして進め、情報交換にしてはどうか。

(総務委員会でも相談、意見交換していただいている)

<3グループに分かれて意見交換、案として>

20園ですすめるのは難しい。

ただ集まるだけでなく、方向性を決めて集まる方がよいのではないかと。

(方向性の検討)

- ・やってきた流れは続けつつ、出来ない、出来るではなく、出来てくることに目を向けてそれを伸ばしていく。
- ・視点別課題が出てきているので、課題を研究していく。
- ・以上児クラスと未満児クラスの共有が難しい。どういう形で情報共有しているのか情報交換していく。
- ・今の子どもたちから得るものを掘り下げていく。
- ・手遊びの年齢を広げていくことで、違う見方が出て来るのではないかと。

指導助言者 竹岡七重氏より

何のために研究をしているのか。「子どもたちの豊かな育ちのため」、「保育の質の向上のため」この思いを自園で取り組む。そして、こんな保育をしていますと、小学校に伝えてほしい。